

# 心理学部 番外編 2008

~ T 教授の観察ノートから ~

2008.2.11 タツノオトシゴ



ついに始まりました、番外編による謎解きが・・・(^ ^)  
Cacco さんが投げ返したボール、大変な方向へ飛んで行きます。

古い日記から読み解く、「奇妙な夢」が引き起こした出来事の数々・・・  
まさか、このような形で紹介されるとは、T 教授は思ってもいなかったことでしょうか？  
いやいや、天邪鬼な性格の T 教授のことですから、きっと何か仕掛けが有るはずですよ。

この日の語り手は矢澤さん、朝食の時間になっても中々部屋から出てきません。  
実は昨日の夕食後、TICA さんの発表が終わったあと、何処かへ出かけ夜遅く帰ってきた  
ようです。彼の事ですから、今夜の発表に向けて準備でもしているのでしょうか？

ここで、例の T 教授のメモが役立つそうです。

『昨夜は色々な事が起こり、予定よりも遅くなってしまったので Yorge に頼んで、ユング君を家まで送ってもらった。その間に、S 婦人に色々と手配をしてもらい、何とか大事にならずに済んだが、一体どうやって連絡など取っているのだろうか？夜は伝書鳩も使えないし、執事のほかに動ける人もいないようだが・・・S 婦人の部屋には、何か秘密がありそうだ(^ ^ ; 』



朝方、学生達の会話によると、『夜中に S 婦人の部屋の方から、何やら規則正しい時計のような音が聞こえてくる』という事が話題になっています。(いよいよサスペンス！)

そんな中、矢澤さんが部屋から出てきました。見ると、顔に赤い引っかき傷があります。  
『その顔、一体どうしたと言うの？』お茶目な TICA がビックリしたような声で聞きます。  
Yorge は『朝起きてみると、こんな顔になっていたのさ、そして鏡をみて驚いた！！』  
皆は、Yorge の顔がそんなになった理由を聞きますが、『それは夕食までのお楽しみ(^ ^ ; 』  
と言って答えてくれません。どうも、昨夜の出来事とは、別の事件があったようです。  
T 教授は、Yorge の顔を見ても、何事もなかった様に、『みんな、おはようさん！』と挨拶して通り過ぎていきました。

実は、Yorge にユング君の事を頼んだ T 教授、ちょっと心配なこともあり後をつけていたのです。メモには次のような驚くべき事実が書かれています。

『S 婦人が尋ねていく所はどんな場所か知りたいが、やっとその機会がやってきた。何時もユング君は一人で家に帰るのだが、今夜は遅くなるので Yorge に頼んで、その後をつけてビックリした。途中、寄り道しながら月明かりの中を二人が歩いていく先は、あの教会だったのだ。Yorge は途中、水辺の小道を歩いてユング君に注意されていたが、あの赤い葉は、何か毒を持っている樹の種類のようなのだ。』

そうなので～す(^ ^ ; ユング君のお家は、あの中世の教会です。ということは、S 婦人が連絡してくれた神父さんとは、ユング君のお父さんに違いありません。

そして、矢澤さんがユング君に叱られた原因は、触れてはいけない樹の葉っぱのある小径の方を歩いていたからなのです。T 教授も、自分の興味があることを他人に押し付けるなんて、案外スミにおけません(^ ^ ;



ところで Yorge のほうは、ユング君を家まで送り届けまっすぐに帰宅しています。その後早速、T 教授の所へ行って報告をしています。

『Yorge からの報告では、ユング君のお父さんは背が高く、細身の紳士のようだ。特に変わったところは見受けられず、温厚な牧師さんらしい。まあ、明日の昼過ぎにはお目にかかれるのだから・・・しかし、学生たちが話していた機械音のことが気になる。S 婦人の部屋には、何か不思議な仕掛けが置いてあるのだろうか?』

T 教授も、夜中の不思議な音に気が付いているようです。Yorge の後をつけていた T 教授、先回りして自分の部屋に戻ってきたのですが、気になる事があり夜遅くまで調べものをしていました。あの『赤い葉』の植物についてです。この辺りに多く見かけるツタ状の植物で、秋口になると葉が真っ赤に紅葉します。T 教授は Yorge の通った道を後戻りして、あの赤い葉を一枚持って帰ってきていました。小ぶりの卵形をした葉っぱを机の上に置き、植物関係の書物で関係のありそうなページにしおりを挟んでいます。どうやら、それに該当する記述を見つけたらしく、T 教授は本を閉じ、ベッドで横になって自分の手を電灯にかざして見つめています。

しばらくして、例のあの音が規則正しく聞こえてきました。

コチコチ、コチコチコチ、コチコチ、コチコチコチ・・・・

『昨夜も遅くまで、例の音が聞こえていた。小さな音だが妙に規則正しい音だ。5分位して聞こえなくなったが、方向からするとS婦人の部屋から伝わってくるような気がする。最近、アメリカでは電話という機械が発明されたという事を聞いたが、どうもそれと関係がありそうな気がする。S婦人、昔から新しいものが好きで、時々、職人が工事に来ていたし・・・』



何時ものように学生達が各自外出したあと、牧師さんがS婦人の家を訪問しています。執事に案内され、S婦人から何やら手渡されたようです。『それでは、よろしく願います』という婦人の挨拶に、軽く会釈して教会に戻って行きました。

その夜のT教授の日記には、次のような事が書き込まれていました。

『夕食の時間、Yorgeは顔を傷だらけにして「不思議な夢の話」をしてくれた。普通、夢の中では痛みや熱さを感じる事は少ないのだが、例の「赤い葉」が悪さをしたようだ。あの「つたうるし」を触ると、皮膚が焼けるように痛み、それを引っかくとひどい傷になる。トイレに行ってその手で触ると、これまた大変な事になっただろうに・・・私の手のひらも、大分収まったが、まだ腫れが引いていない。不思議な夢の原因は分かったがまだ、あの音の正体がかめていない。今夜もしばらく観察してみよう。』

さて、Yorgeの夢は色々な偶然が重なって起きたことだと分かりました。

猫に引っかかれた夢、貴方もお験しになってみませんか？

さて、次回のうさおさんの夢は大変な夢です。だって、未来指向が強くてチョッと悩ましいから・・・

そして時代考証が難しい(^\_^;

